

2018年度

市民向け学習会「町田市の図書館をデザインしよう！」

開催報告

第1回：市民向け学習会 「町田市の図書館をデザインしよう！」

■日時

2019年2月17日（日）13:30-16:00

■場所

町田市立図書館ホール

■参加者数

18名

■テーマ

持続可能な公共図書館のあり方ー各地の自治体の実情に基づいて

■プログラム

進行時間	所要時間	内容	担当
13:30-13:33	3分	開会の挨拶	中央図書館（館長）
13:33-13:35	2分	趣旨説明	ARG（下吹越）
13:35-14:20	45分	講演「持続可能な図書館のあり方 ー各地の自治体の実情に基づいて」	ARG（岡本）
14:20-14:40	20分	質疑応答	ARG（岡本） 中央図書館
14:40-14:55	15分	休憩・会場転換	ARG 中央図書館
14:55-15:05	10分	オリエンテーション	ARG（下吹越）
15:05-15:10	5分	自己紹介	各グループ（全体）
15:10-15:25	15分	テーマに応じて個人の意見を考える	各グループ（個人）
15:25-15:40	15分	グループ内で共有	各グループ（全体）
15:40-15:45	5分	発表（各班1分30秒）	各グループ（全体）
15:45-15:50	5分	講評	中央図書館（館長） ARG（岡本）
15:50-15:55	5分	次回に向けた連絡事項	中央図書館
15:55-16:00	5分	記念撮影	全体

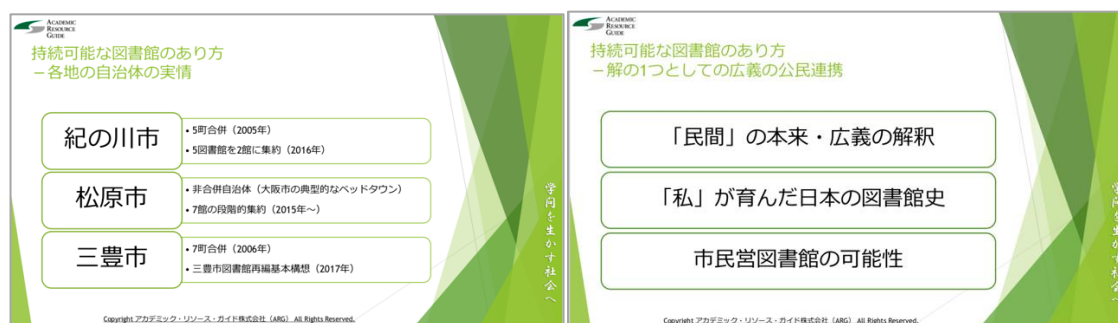
■講演の概要

持続可能な図書館のあり方をテーマに、特に昨今の社会状況、人口動向について大きな概要を整理したのち、公共施設等総合管理計画という政策の登場から、公共施設マネジメントの考え方についてレクチャーを行なった。



(講演用スライドより抜粋)

さらに、全国の自治体の事例から、実際に公共施設等総合管理計画に基づき、図書館の設置・集約・複合化などのケースを紹介し、持続可能な図書館のあり方のモデルとして、市民と協力しあう、広義での公民連携による図書館運営を提示した。



(講演用スライドより抜粋)

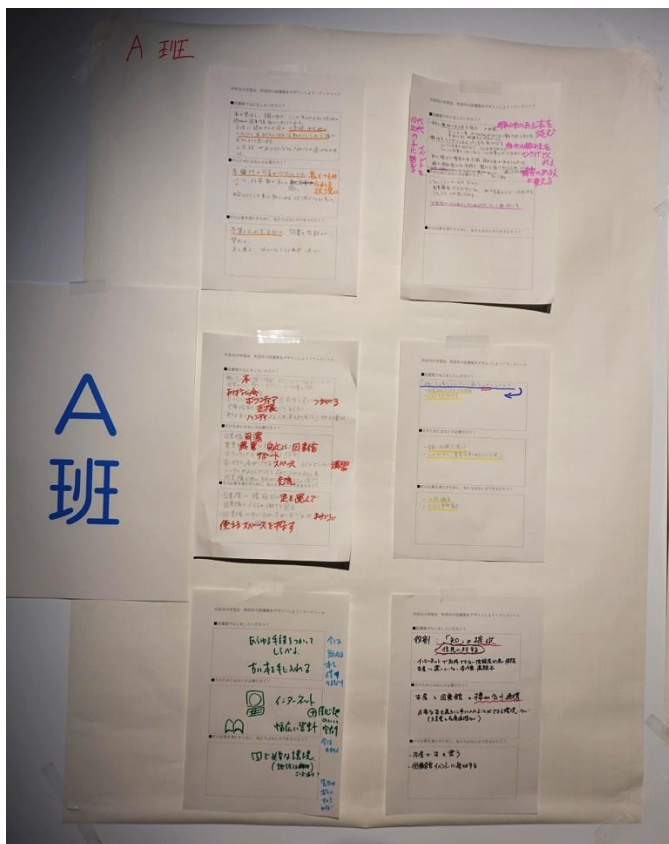
■ワークショップの概要

講演内容を踏まえ、市民自らが図書館運営に関わるきっかけを考えるヒントとして、以下の3つの問いかけを設定した。その後、ワークシートを用いて自分の意見を整理し、グループ内で意見交換する時間を設けた。

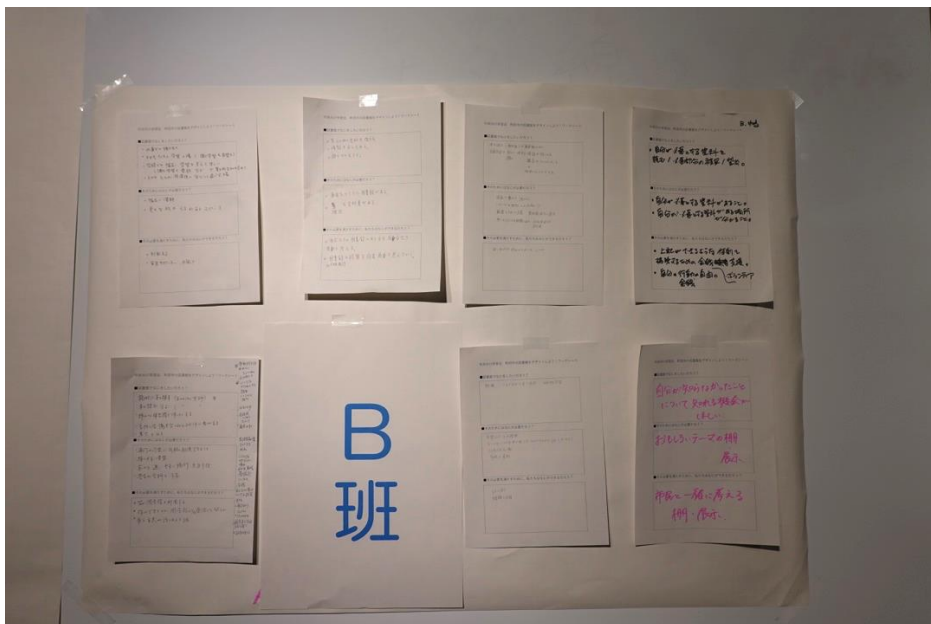
1. 図書館でなにをしたいだろう？
2. そのためにはなにが必要だろう？
3. その必要を満たすために、私たち市民はなにができるだろう？

■第1回の成果：発表

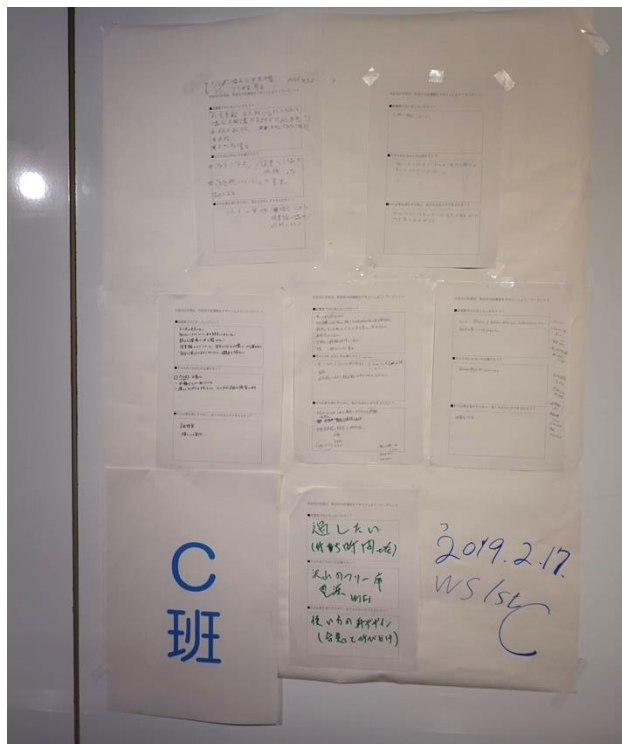
1. A 班



2. B 班



3. C班



4. D班



■参加者の気づき（ワークシートより一部抜粋）

＜図書館でなにをしたいだろう？＞

- ・ 本屋で本を買ったり、インターネットで調べたりする以外のことしたい（A）
- ・ 人と人とのつながりをつくりたい（A）（D）
- ・ 自分の興味を広げてほしい（A）
- ・ 子どものたちの学びを支え、安心して時間を過ごせる居場所となしてほしい（B）
- ・ 静かな環境でゆっくり本を読みたい（C）
- ・ 多様なイベントが開催されて参加できる（A）（B）（C）
- ・ 子どもが声を出したり、喋ったりしても怒られない（B）（D）

＜そのためには何が必要だろう？＞

- ・ 専門司書が長く勤められる環境をつくる（A）
- ・ ひとがたくさん集まること（A）
- ・ 居心地のいい空間（A）
- ・ 多世代（特に若い世代）へのアプローチ・広報（B）
- ・ 身近なところに図書館がある（B）
- ・ 資金・予算（A）（C）
- ・ 地域や企業などへの協力依頼（C）

＜その必要を増やすために、私たちはなにができるだろう？＞

- ・ 図書館に足を運ぶ・利用する（A）（B）（D）
- ・ 市民サポーターを組織する・仲間をつくる（B）（C）（D）
- ・ 自分たちの図書館のあり方を自分たち自身で考える（B）
- ・ 学校図書館の利用解放を進める（C）
- ・ 電子化が進むなかで、多様な読書形態のあり方を考えること（D）

■簡易考察

- ・ 高校生や主婦、地元書店関係者、学校図書館関係者など幅広い属性の参加者が集まったことで、それぞれの視点から意見を出しあうことができていた
- ・ 図書館の利用の仕方や、図書館で実現したいことが実に多様であることを改めて共有しあい、単なる資料の貸し借りだけではない図書館のあり方や、これからの図書館の可能性を感じることができていた
- ・ 問いかけをヒントに、自分たちが図書館に対してできることを主体的に考え、サポーター組織など具体的な方法についても言及があった

第2回：市民向け学習会 「町田市の図書館をデザインしよう！」

■日時

2019年3月10日（日）13:30-16:00

■場所

町田市立図書館ホール

■参加者数

16名

■テーマ

町田市らしい図書館の未来を考えよう

■プログラム

進行時間	所要時間	内容	担当
13:00-13:30	30分	事前準備・受付	中央図書館 ARG
13:30-13:35	5分	開会の挨拶	中央図書館（館長）
13:35-14:40	5分	「あり方見直し方針」の説明	中央図書館（館長）
13:40-13:55	15分	オリエンテーション（前回振り返り）	ARG（下吹越）
13:55-14:10	15分	ワンポイントレクチャー#1 行きたくなる図書館の特徴とは	ARG（岡本）
14:10-14:30	20分	グループワーク#1 町田市民が行きたくなる図書館は、 どんな場所だろう？	各グループ（全体）
14:30-14:45	15分	ワンポイントレクチャー#2 行きたくなる図書館を実現するには、な にをすべきだろう？	ARG（岡本）
14:45-15:05	20分	グループワーク#2 未来の町田市立図書館を想像しよう！ いま、わたしたちがすべきこと	各グループ（全体）
15:05-15:20	15分	休憩 ※ワークシートを模造紙に貼る	ARG（岡本）
15:20-15:35	15分	ディスカッション・発表準備	各グループ（全体）
15:35-15:45	10分	グループ発表	全体

15:45-15:55	10 分	講評	ARG（岡本） 中央図書館（館長）
15:55-16:00	5 分	事務連絡・記念撮影	全体

■レクチャー概要

前回内容と参加者の反応から、第2回は第1回のような長いレクチャーを冒頭に設けるのではなく、短いワンポイントレクチャーとグループワークをセットにして、全体を通して参加者とともにインタラクティブな学習活動ができるプログラム構成とした。

それぞれのテーマごとに関連する情報をスライド投影しながら、参加者の反応を見ながらグループワークへの導入となるレクチャーを行なった。

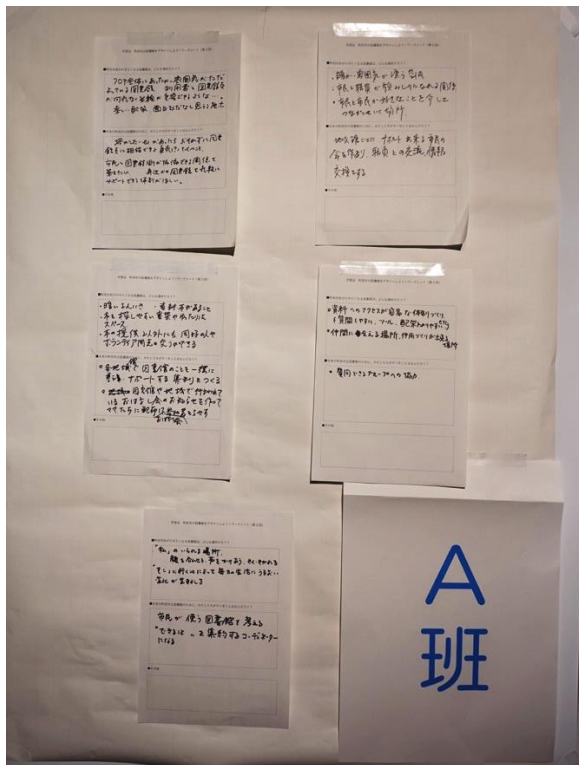
■グループワーク

ワンポイントレクチャーと連続して、未来の町田市立図書館のために「私たちは、なにをすべきか」を重視した2つの問いかけを設定した。第1回のワークショップでは、「なにをしたいか」を入り口とし、第3回のグループワークで「なにをすべきか」とより深いレベルで問いを設定することで、主体的かつ具体的なアクションへつなげるきっかけづくりを促した。

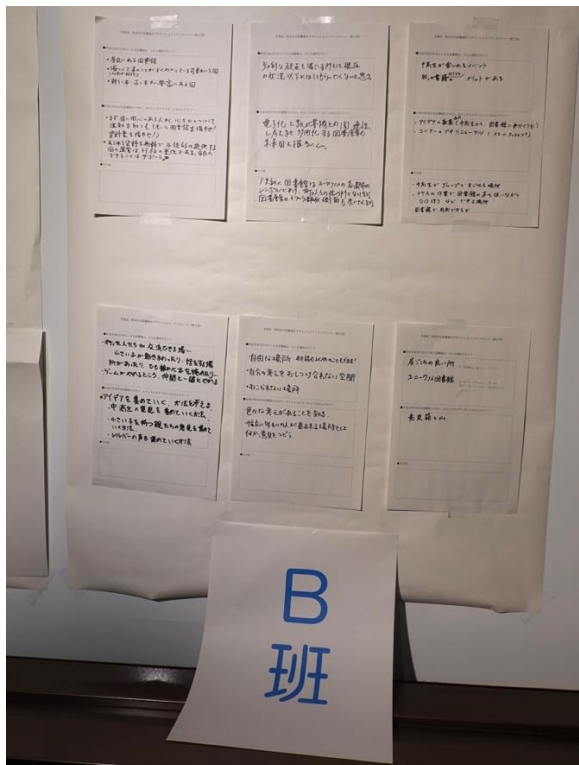
1. 町田市民が行きたくなる図書館は、どんな場所だろう？
2. 未来の町田市立図書館のために、わたしたちがすべきことはなんだろう？

■第2回の成果：発表

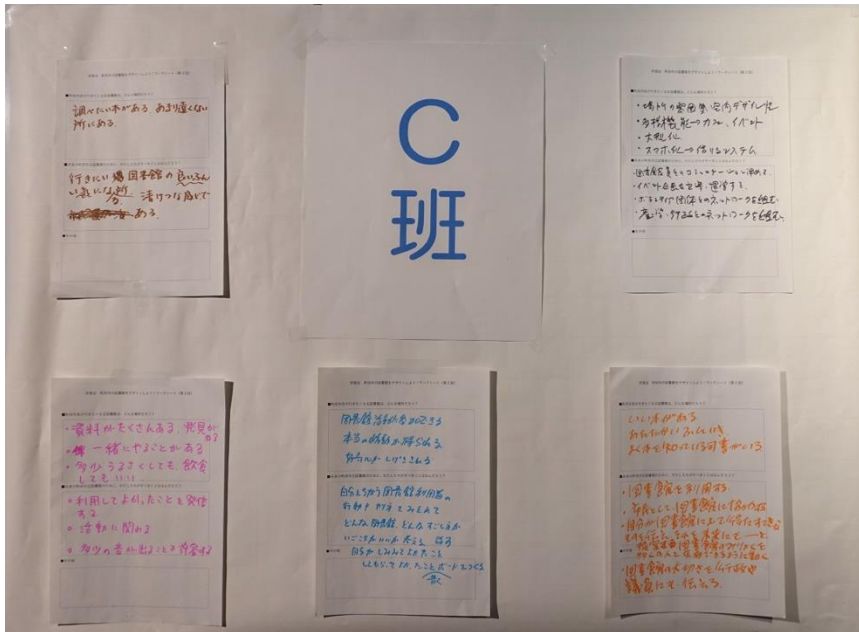
1. A 班



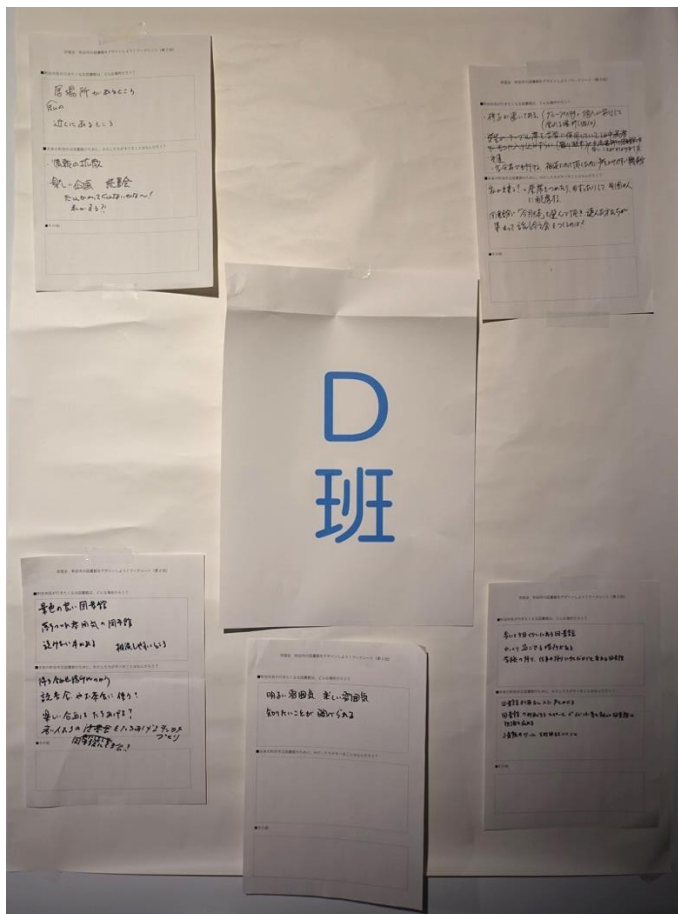
2. B 班



3. C班



4. D班



■参加者の気づき（ワークシートより一部抜粋）

<町田市民が行きたくなる図書館は、どんな場所だろう？>

- ・ フロア全体にあったかい雰囲気が漂っている図書館（A）
- ・ 利用者も図書館員も笑顔になれる図書館（A）
- ・ 仲間に会える場所、仲間づくりができる場所（A）
- ・ 好奇心が刺激され、楽しめる配架・面白そうだと思う展示（A）（C）
- ・ 「私」のいられる場所、町の人々の拠り所（A）（B）（D）
- ・ 中高生が楽しめるイベントを開催している場所（B）
- ・ 静かに本が読めるだけではなく、子どもが動き回ったり、話ができたりする場所（B）
- ・ 仲間と一緒にゲームやボードゲームができる場所（B）
- ・ 本を読む以外の活動もできる、本当の意味での自由な場所（B）
- ・ 怒られない場所（B）
- ・ 図書館活動に参加できる（C）
- ・ 資料についてよく知っている司書、声をかけやすい職員（C）（D）

<未来の町田市立図書館のために、わたしたちがすべきことはなんだろう？>

- ・ 市民と図書館側が協働できる関係を築きたい（A）
- ・ 地域館ごとにサポートする市民の会をつくり、職員との交流・情報交換をする（A）
- ・ 市民が使う図書館を考える”できること”を集約するコーディネーターになる（A）
- ・ 図書館にあまり来ない中高生に向けてアイデアを募集する（B）
- ・ コーナーを部分的にプチリニューアルしてみて、利用者の反応を見る（B）
- ・ 幅広い年齢の人が集まれる場所とは何かについて、継続的に考え、意見を募る（B）（C）
- ・ 利用してよかったことを発信する（C）
- ・ 多少の音が出ることを許容する（C）
- ・ イベント企画を立案・運営する（C）
- ・ 図書館の情報を発信・拡散する（D）
- ・ 若い人たちが図書館に来るきっかけづくりをする（D）

<その他>

- ・ 試験的に中高生がグループで使える場所や、PTA 作業などで図書館の資料を使いながら制作活動などができる場所を用意してみてもどうか（B）

■簡易考察

- ・ 問いかけから、図書館に関心を持ち、来館者をどのように増やしていけるかを具体的に考え、積極的にアイデアを出しあう参加者の姿が印象的だった
- ・ 子どもが声を出したり、小・中学生が集まって話したりできるような場を求める声が多く出された
- ・ 利用者同士のつながり、利用者と職員のつながりを求める意見がだされ、そのための具体的な組織づくりや交流の場づくりを主体的に提案する雰囲気が生まれた

- ・ 中高生などの若い世代が図書館に行きたくなるようなきっかけづくりの重要性が議論された

以上